２０１５年10月10日

抗　議　の　要　請

１０月９日の米原子力潜水艦シャイアンの横須賀入港に強く抗議する。横須賀基地は原子力潜水艦の母港ではない。原子力潜水艦シャイアンは、ただちに横須賀港から出て行くこと要求する。

米海軍第７艦隊司令官　　ジョセフ・アーコイン中将　殿
在日米海軍司令官　　マッシュー･カーター少将　殿
米海軍横須賀基地司令官　デービット･グレニスター大佐　殿

神奈川県労働組合総連合
新日本婦人の会神奈川県本部
神奈川県商工団体連合会
神奈川県平和委員会
安保廃棄神奈川県統一促進会議
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
原水爆禁止神奈川県協議会

１０月９日午前１０時３５分、ロサンゼルス級攻撃型原子力原子力潜水艦シャイアンが横須賀基地に入港した。原子力潜水艦の入港は今年１１回目で、原子力艦の入港は通算９０９回となった。現在、横須賀基地には、１０月１日に初入港した原子力空母ロナルド・レーガンが滞港しており、危険な原子力艦船の原子炉が横須賀に３基存在する異常な事態である。

このように戦争のための軍艦が横須賀基地で入出港を繰り返していることは、米軍が東アジアでの軍事行動を強化していることを意味し、アジア・太平洋の平和と安全にとって大きな害悪をもたらしている。米軍艦船による東アジア・太平洋での日米豪韓の共同軍事演習は増えている。原潜シャイアンの横須賀基地入港は、軍事的害悪をもたらすものであり許されない。

福島原発事故から４年７ヶ月が過ぎた。未だ１０万人を超える人々が避難生活を余儀なくされ、放射能被害に苦しめられている。首都圏や横須賀基地を含む三浦半島で巨大地震の発生確率が高まり大地震による原子力艦船の原子炉事故の可能性が増大し、首都圏住民の原子炉事故、放射能被害の不安も広がっている。

このような住民の不安に対し、先に入港した原子力空母ロナルド･レーガンのボルト艦長は、「私の船に限っては、厳しい基準に従って運用しており、１００％安全だと自負している」「原子炉に対する危険性が非常に誇張されているように感じる」などと記者会見で暴言を吐いた。さらに、原子力空母ジョージ・ワシントンが日本近海で第１次冷却水を違法に放出していたことも、明らかになっている。

米軍は、まともに情報公開もせず、根拠のない「安全神話」を一方的に押しつけ、地震や津波に対する対策を講じようとしていない。さらに、陰で、違法な海洋投棄なども行っている。

このように県民要求に答えず原子力艦船の横須賀入出港をくり返すことは断じて許されない。原子力艦船の原子炉事故対策について明らかにすることを強く要求する。

米原潜の核兵器搭載、核持ち込みも重大である。原潜シャイアンが核兵器は積んでいないことを証明すると同時に、核密約はただちに破棄することを要求する。

横須賀基地は原子力艦船の母港でない。原子力潜水艦シャイアンは、ただちに横須賀から出て行くこと、原子力空母ロナルド･レーガンの母港を撤回することを強く要求する。